



かみつきは自我が芽生え、自分の思いを言葉で表現できない0・1歳児クラスの時期に多く見られます。かんだ方も、かまれた方も不安になりますので、かみつきはどのようにして起こるのか、そして園ではどのように対応していくのかをまとめました。

かみつきの原因

かみつきは発達過程で見られるものです。原因が明確な場合とそうでない場合があります。

- ・近くに手や足があったから
- ・遊びのつもりでしゃれている
- ・おもちゃや場所の取り合い

かみつきが起きてしまった時の対応

[患部のケア] 流水で流し、保冷剤で冷やす

保冷材は冷蔵庫で冷やしたのを使います。

凍らせると点でしか冷えないためです。

[心のケア] かまれて痛かった気持ちに寄り添います。

[噛まれた子の保護者対応]

謝罪と噛まれた経緯などを報告します。

保育中は園の責任ですから園が謝罪し、噛んだ子のお名前は伏せさせていただきます。

[噛んだ子の保護者対応]

基本的には相手のお名前は伏せますが、噛んでしまった状況をお伝えします。

かみつきをなくすために園でしているかわり

★未然に防ぐ

- ・よくかみつく子の周囲に近づきすぎないように見守る
- ・トラブルの予兆を察知して間に入る

★言葉で表そうとする気持ちを育む

- ・かみついてしまったら「〇〇したかったんだね」と子の思いを言葉にして代弁する。

★トラブルが起きにくい環境を整える

- ・ひとりひとりが十分に遊べるスペースを確保する。
- ・1つしかないおもちゃはなるべく出さない。楽しんで遊べるおもちゃの数を十分に準備する



保護者の皆様へのお願い

園でかみつく子は家庭で保護者にかみついていることが多いです。愛情表現やおふざけのひとつとして受け止めていることもよくありますが、次のようにご対応をお願いします。

- ★かみつきは、相手を傷つける行為なので、絶対にダメだと分かりやすく伝えましょう
- ★かみつくのではなく、「こんな風にお話してね」と言葉や、他のスキンシップの方法など代替りの他の表現の仕方を伝えましょう